

文学館だより

平成28年 9月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 68 - 9511

若竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたましひを

「黒松」 収録

歌の意味

歌の背景

若竹が伸びゆくように、子ども達よ、まっすぐにのばせ。身を、そして魂を。

大正12年の秋ごろの作。「やよ少年たちよ」九首の冒頭の歌である。牧水は子ども達を心から愛した。わが子はもちろん、すべての子ども達を愛した。子どもの純粋の心を大切に思っていたからである。「若竹の伸びゆくごとく」の比喩がすがすがしい。子どもに対する牧水の願いと祈りが平明に表現されている一首である。
(『命の碎片』伊藤一彦著 引用)

第6回牧水・短歌甲子園

盛会裏に幕を閉じる

東京の大学へ行くと告げた時一言のままで頷いた父
雨の日はちょっぴり口数多くなる彼の隣で傘開く道
ばあちゃんの打つ相づちは「んだんだ」といつも私を癒やしてくれる

12チーム36名の高校生たちが一堂に会し、第6回牧水・短歌甲子園が8月20日(土)、21日(日)の両日日向市中央公民館を会場に開催されました。

自作短歌を発表し、三十一文字に込めた想いを熱く訴えました。

閉会式前には、宮崎商業3年狩峰隆希さんが今年で最後となる短歌甲子園への想いを発表した「青年の主張」を披露しました。短歌は過去までも豊かにすることができ、校内文化祭で短歌甲子園を再現させたこと、来年度も短歌甲子園に関わっていきたいことなどを堂々と訴え、会場から拍手喝采を浴びました。来年も楽しみです。



紅白に分かれての対戦の様子

団体戦優勝

宮崎県立宮崎商業高校

牧 水 賞……入場者の投票により最多得票作品に贈られる賞です

きみが好き「th」の発音とか自転車漕いでる背中角度とか、とか、

宮崎商業高校

牧 将暉

若山牧水記念文学館長賞

降水の確率二割で傘を持つ我が恋敵は持たないはずだ

八女高校

小嶋 紳介

俵 万智 賞

夏だね、と話しかければ蕎麦の花こぼれるばかりあなたの夏は

横浜翠嵐高校

杉本 茜

大口 玲子 賞

さっきまで変な人だと思ってたもももずするのは恋だったんだ

宮崎県立延岡高校

三樹 初菜

笹 公人 賞

ひと声でメスを集める野良猫よ恋の鳴き方教えておくれ

八女高校

木村 一平

日向市東郷町若山牧水顕彰会長 賞

テレビから「花は咲く」が流れれば隣で母は涙溜めてる

盛岡第二高校

熊谷 友里

第31回牧水生誕祭

8月24日、延岡にて

『順序から云って私は先づ自分の誕生の時の事から筆を起さねばならぬ様に思ふ。
明治十八年八月廿四日、その日は陰暦では恰度お盆の十五に当っていた相だ。』

おもひでの記はこう始まる。

(中略)

『此処でお前はことんと音をさせて生れたのだよ、と其後もう余程生長してから度々姉どもは私をその縁側へ連れて来てはからかった。田舎の家の事で、幅の広い、頑丈な板縁で、真東に向いてゐる。中学に出る様になつて暑中休暇で帰省してゐる時など、其処は家の中でも涼しい所なので私はよくその板縁に寝ころびながら、自分の生れた時の事などを想像して見たものだった。』

牧水は明治18年8月24日、ここ坪谷で生まれました。
今年も牧水生誕祭が若山牧水延岡顕彰会、延岡東ロータリークラブ主催により、8月24日延岡市で開催されました。



牧水像へ献酒する出席者



「あけぼの」第16号を手渡す平賀徹氏(左)

～ 式 次 第 ～

第二ゆりかごWEC学院5, 6歳児による牧水短歌朗詠
牧水顕彰講演 『牧水終生の友 平賀春郊』 平賀 徹氏
塩月 眞延岡顕彰会長他6名による短歌朗詠
延岡混声合唱団による合唱
牧水像へ献酒

例年、セレモニーと銅像への献酒だけが行われていた生誕祭ですが、今年は平賀徹氏による講演会が注目を浴びました。
平賀氏は、牧水生涯の友—平賀春郊(本名・平賀財蔵)の孫にあたられる方です。牧水が春郊に宛てた264通にも及ぶ書簡を春郊から娘へ、そして現在孫の徹氏が大切に守り、調査解析を進めて来られました。

今回、徹氏から延岡市へ雑誌「あけぼの」第16号(明治 37 年4月26日発行)が寄贈され、講演を前にその贈呈式が行われました。

「あけぼの」とは、延岡中学校時代、牧水、春郊らによって手書きで発行されていた回覧雑誌です。徹氏によると「あけぼの」は16号まで発行されているとのこと。ということは、この第16号は一冊しかない、しかも最終号という貴重な資料ということになります。

明治 37 年は、牧水早稲田大学入学の年。よって掲載されている「江戸より」は送付後代筆され発行の運びとなったと思われます。

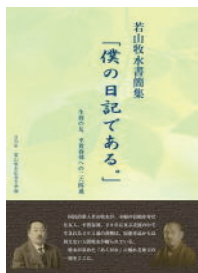
牧水から春郊へ宛てた書簡は明治 34 年 12 月31日から始まり、264通にも及びました。

秀さん(日高秀子)の死を伝える 明治 40 年 11 月 18 日付の書簡末尾に「出来るなら僕の手紙を破らずにとっておいて呉れないか、僕の日記である。」ということばが付け加えてあります。 参照 生誕祭講演資料

タ刊デシリ一掲載記事



企画展(平成 19 年実施)



書簡集(文学館にて販売)

当文学館では、新規資料公開展において新しく発見された春郊宛書簡をまさに今、展示中です。

(9/19 まで)

書簡集「僕」の日記である。」も出版、販売しております。



野虹会同人(明治37年)

前列中央が平賀春郊
後方左が牧水

来たる 9 月 1 7 日 (土) は牧水の命日です。
生家周辺および牧水公園ふるさとの家において第66回牧水祭を開催いたします(受付9時)
今年の対談は延岡顕彰会副会長 上田耕市氏(虎屋社長)と伊藤一彦文学館長です。